
屍鬼

ノワール

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

屍鬼

【Nコード】

N7469V

【作者名】

ノワール

【あらすじ】

佐野 洋平・黒河峰 影光・風魅 氷河の三人は、夜中に家を出て、矢陀山の奥にある屋敷の前に来ていた。

その屋敷は何時からあるのかが誰も分からず、昭和よりずっと前からあるのか、最近できたものなのか、知っているものは居ないといわれている。

そこで佐野たちが見たものは・・・人の亡骸と・・・動く死体・・・

屍鬼だった。

- ・ 佐野たちは屋敷にあるものを使いながら屍鬼と戦いつつこの屋敷から逃げ出そうとするが・・・出口の前に居た者は・・・

屍鬼 プロローグ（前書き）

また書き直しです）、）、（すみません

これからは月1で投稿できるように頑張りますのでそれで許してくれるとうれしいな（苦笑い）

ん〜と、今回は、主人公をビビらせつついきたいと思いますw
戦闘は・・・まあ、苦手なので少し雑になるかもです
（ノ、）＜駄目だ・・・小説ってむずかしいい！

この話に出てくる町名、県名は存在しません。

屍鬼 プロローグ

3日中谷県の高崎市で、行方不明になっていた

‘黒河峰 影光 17歳’佐野 洋平 17歳

の青年二人が路上で傷だらけなところを保護されました。

二人が言うには、矢蛇山の奥にある屋敷に行っていたらしく、そこで屍鬼と言う化け物に襲われていたそうです。

そして、そこから逃げ出すさいに、‘風魅 氷河 16歳’が亡くなられたという事を言っており。

それを確かめる為、我々はその屋敷に行ってみることにしました。そして、此処が彼らの言っていた場所です。

時刻はPM2時だというのに辺りは夜のように暗いですね

肝心の屋敷の方は、窓は防弾ガラスのようですね

ここまでは彼らが言っていたとおりですね

そろそろ中に入ってみましょうか

キィィィ

中は・・・暗くて何も見えませんね・・・

明かりをつけましょっ！ぐう、があ！ぐうああああ！

グチュ！グシャア！ポトポト

な！なにが起きてっ！う、うわあああ！

グシャグチュグキッ！

ザッ・・・ザッ・・・

バキッ！

ザア――――

屍鬼

俺達は今、矢陀山の奥にある屋敷の前に来ている。

ここは何時からあるのかが分らないらしい

昭和くらい、いや・・・それより昔なのか、最近立てられたのか、それを知ってる人は一人も居ないといわれている。

それに、此処に入った者は誰一人として出てこないと言われても居るのだ

その話を聞いた俺達は、夜中に家からこっそりと抜けだして此処にきたんだが・・・この屋敷に着くのに1日かかっちゃった

山の奥しか知らなかったせいで歩きまわって探したんだが、1日か

かるのは予想外で、食料もあと少ししかないってときに見つかった。いまごろ親は心配してるんだろうけども、此処で引き下がるわけには行かないだろ？

だから俺達は今、この中に入る準備中つてわけだ
まあ準備つて言っても懐中ライトを取り出して食事してるだけだが

『おゝい！佐野、そろそろ中に入るぞおゝ』

『早く入ろうぜ！もう我慢できねえよ！』

『す・・・すまねえ！すぐ行く！』

えゝと、俺の名前を呼んだやつは、黒河峰 影光、てんだ、勇気があつて頼りがいがあるやつだ！

そして次に喋つたのが、風魅 氷河、まあいつもあんな感じのやつなんだwまああの明るさに何度か助けられてんだがな

おっと、そろそろ行かないとな
俺は皆のところに行っていく。

『たく！おせゝよ どんだけしょんべんに時間かかってんだよw』

『う！うっせーやい！もし中で漏らしたら恥ずかしいじゃねえか！』

『あははは 佐野がもらしたら写真とつて皆にばらまいてやるよ』
『！』

『ちよ！氷河お前それは冗談でもやめてくれよ！ てかさろそろ

入ろうぜ』

『そうだな、んじゃ行きますか!』

『『おお〜!』』

俺たちは全員で扉を開けて中に入った

そして今はこの屋敷には入ってしまったことを後悔している。

入る前までは皆で冗談言ったり笑ったりと楽しかった・・・でも

ここに入って体験したことで俺は笑うことをしなくなった・・・

人から距離をとり、部屋で引きこもるようになった、そして・・・

俺は自分の命を・・・

屍鬼 プロローグ（後書き）

プロローグってこんな感じでもいいのかな？

え〜と、次から本編なので今回は文少ないです！

うん、そして病院が屋敷になりました

ここからもっと頑張る予定ですので読んでいただけたら光栄です！

後、読みにくい！ や誤字があったら言ってくれとたすかります
です。

感想をくれると喜びます。 はい自分がw

それから此処！<http://ncode.syosetu.com/n7671w/>

友達が書いてるやつですwこの読んであげてくれるとうれしいです。

いいやつだから感想とかしてやったりしてくれといいなあ

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7469v/>

屍鬼

2011年11月16日19時10分発行